

矢作川流域圏懇談会通信

R7 山部会編 vol. 1



発行 日：令和 7 年 7 月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第 72 回山部会、川部会合同WGを開催しました！

豊田市にて第 72 回山部会、川部会合同WGを開催しました。今回の WG は、テーマ別の活動進捗状況の報告や愛知県河川課、林務課の方からカーボンニュートラルについて話題提供をしていただきました。



日 時：令和 7 年 6 月 27 日（金） 13：30～17：00

場 所：豊田市旭交流館

参加者：33 名 ※事務局を含む

◆主な会議内容

1. テーマ別の活動進捗状況の報告



テーマごとに活動進捗状況について、担当者より報告いただき、意見交換を行いました。

■流域圏担い手づくり事例集（豊田市矢作川研究所 洲崎 主任研究員）

- ・流域圏担い手づくり事例集Ⅵ-1 の完成を報告し、取り組みの概要を説明しました。
- ・多くの方に手に取って読んで欲しいため、みなさまに積極的に配布していただくことを推奨しました。
- ・今年度後半に、2 冊目となる流域圏担い手づくり事例集Ⅵ-2 を発行予定であることを報告しました。

■山村ミーティング（NPO 法人山里文化研究所 丹羽副代表）

- ・昨年度に「森と人をつなぐ」を刊行するなどの活動を行ってきましたが、地域間を繋げ、皆で幸せに笑いながら暮らせる地域を作り、森と人の問題を解決するために山村ミーティングとしての活動を改めて議論しました。

■森づくりガイドライン（山部会 蔵治 座長）

- ・矢作川流域の市と村の間伐・皆伐面積の実績データを整理し、変化をグラフで示しました。近年の間伐面積は、ほぼ横ばいでしたが、今年は恵那市と豊田市が減少する結果となりました。
- ・海と森の繋がりについても議論された不知火海・球磨川流域圏学会の創立 20 周年記念シンポジウムについて紹介しました。
- ・長良川河口堰やシカによる森林植生と土砂災害への影響のシンポジウムについて情報共有しました。

■木づかいガイドライン（森と子ども未来会議 鈴木代表）

- ・あいち森と緑づくり委員会の委員を務めており、委員会の活動内容を情報共有しました。

2. カーボンニュートラルの話題提供



■矢作川・豊川カーボンニュートラルプロジェクト（愛知県建設局河川課）

- ・愛知県河川課から、矢作川・豊川カーボンニュートラルプロジェクトについて話題提供しました。
- ・愛知県の温室効果ガス排出量は全国最多クラスであり、矢作川・豊川カーボンニュートラル推進協議会を設立し、水に関わる関係団体、流域市町村、官民の連携を強化するため、経済団体も参画することになりました。
- ・「再生可能エネルギー」「エネルギーの省力化」「CO2 吸収量の維持・拡大」「新技術・新システムの導入」の 4 つの視点で取り組んでいくことを説明しました。
- ・木瀬ダムの小水力発電の設置と、発電した電力を活用した地域づくり、菱地遊水地の県内初の遊水地空間を活用した太陽光発電の取り組みについて情報共有しました。
- ・水循環基本計画において 2050 年カーボンニュートラル等に向けた地球温暖化対策の推進が閣議決定されました。

■森林クレジット（愛知県建設局林務課）

- ・愛知県林務課から、森林クレジットについて話題提供しました。
- ・J クレジット制度の対象となっている愛知県の森林クレジットについて、活用意義や市場ニーズについて説明しました。
- ・2023 年から J クレジット認証量が急増しており、近隣地域における森林クレジットの取り組みについて情報共有しました。
- ・豊田森林組合、大垣共立銀行、(株)バイウィルによって、J クレジットを活用したカーボンニュートラルに関する協定が締結されました。

3. その他



- ・神谷氏と小堀氏が、多摩川流域懇談会の設立経緯や活動を紹介し、今後開催される流域セミナーについて情報共有しました。
- ・豊田市森林課が、学生を対象とした林業体感・見学ツアーについて情報共有しました。

◆話し合いでの主な意見（・意見 ➤回答）

1. テーマ別の活動進捗状況の報告

(1) 流域圏担い手づくり事例集

- ・ 昨年の多摩川流域懇談会との交流を経て、流域ごとに抱えている課題が異なっていることを痛感した。流域ごとの大きな違いとして、流域単位の人口密度が挙げられる。（近藤）
- ・ 流域総合水管理に努めるということは、想像を絶する覚悟と努力が必要であり、国民全員が認識する必要がある。（近藤）

(2) 山村ミーティング

- ・ 個人で林業を始めたが、組合から仕事が供給されず、若手人材の育成が難しい。地元住民が、外部から就業した人との関係構築に保守的になっている地域も存在する。（小田）
 - 外部からやってきた人に対して寛容である地域と、保守的な地域が存在している。人間としての尊厳を尊重し、山仕事に従事する誇りを持ち、地域から感謝される仕事をするには、どうすれば良いか考え、大きな枠組みを作る必要がある。（丹羽）
 - 林業従事者は不足しており、労働力として個人事業主は必要である。しかし、素人から始めると安全面に不安があるため、3年程度経験し、勉強することが必要である。（小島）
- ・ 流域圏内のフェアトレードが重要であり、川だけの問題ではなく、山、里などの第1次産業を繋ぎ、工業や金融経済を回していく状態が生まれてくる。（山本）

(3) 森づくりガイドライン

- ・ 豊田市の間伐面積の減少理由は、週休2日制の導入や就業福祉制度の導入である。間伐事業の費用の多くが人件費であり、安全に配慮すると、人件費が増加してしまう。（小山）
- ・ 恵那市では、昔は切り捨て間伐であったが、最近は搬出間伐となり、間伐した木を搬出するのに費用がかかってしまう。また、コスト削減のため広範囲をまとめて間伐すれば良いが、森林環境増進税の間伐は、点在している場所が対象なので、間伐面積の減少に繋がっている。（小島）

2. カーボンニュートラルについて話題提供

- ・ 建設工事におけるCO2の削減量は、自動車約500台分のCO2排出量であり、効果としては大きくないのではないかと。（戸田）
 - CO2の排出量としては少ないが、県の管理するダムのカーボンニュートラル化、停電時も発電可能であるなどの評価も含め、管理施設として事業が成り立っている。（川瀬）
- ・ 岡崎市は、三菱が森林整備のお金を出し、カーボンクレジットを買い取る契約だが、愛知県は、森林整備までのお金は出さない契約となっている。（小山）
- ・ 岐阜県で行っているGクレジットの取り組みは、県の森林環境税で整備した森林を対象としており、Jクレジットは、国の補助事業で整備した森林を対象としている。（小島）
- ・ 愛知県が全国的にもCO2の排出量が多いが、県内でCO2を削減するためには、森林に限らず、海などあらゆるものを使っていく必要がある。（小田）



今後の予定

次回の山部会WG・FWは、令和7年8月1日（金）～2日（土）平谷村にて開催します。



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会 事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省 豊橋河川事務所 流域治水課

TEL 0532(48)8107

*矢作川に関する情報は、国土交通省 豊橋河川事務所 流域治水課（cbr-toyo-chousa1@mlit.go.jp）までお送りください。



矢作川流域圏懇談会通信

R7 山部会編 vol. 2



発行 日：令和 7 年 9 月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第 73 回山部会WGを開催しました！

長野県平谷村にて第 73 回山部会WGを開催しました。平谷村での開催は初めての試みとなりました。今回の WG は、テーマ別の活動進捗状況の報告や平谷村役場と飯伊森林組合の方から、平谷村の概要と森林環境譲与税の活用状況について話題提供していただきました。

日 時：令和 7 年 8 月 1 日（金） 13：30～17：00

場 所：平谷村役場

参加者：31 名 ※事務局を含む



◆主な会議内容

1. テーマ別の活動進捗状況の報告



テーマ別の活動進捗状況について、担当者より報告し、意見交換を行いました。

■流域圏担い手づくり事例集（豊田市矢作川研究所 洲崎 主任研究員）

- ・これまでの流域圏担い手づくり事例集活動の概要を説明しました。
- ・流域圏担い手づくり事例集Ⅵ-Ⅱでは、流域総合水管理の実現につながると考えられる活動団体に取材を実施し、事例集として整理する方針を報告しました。
- ・取材先の候補団体について案出しを行いました。今後の議論を通じて、最終的な取材先を決定することを報告しました。
- ・山部会だけでなく、川部会や海部会の方にも取材に協力していただき、担当している分野以外の方に取材することが望ましいことを報告しました。

■山村ミーティング（代理：山部会 蔵治 座長）

- ・出発点「矢作川の恵みで生きる」と今後の活動について意見交換を行いました。
- ・経済の観点で、上下流を連携させる必要があり、森林組合だけでなく、木材流通の流れを対象とすることを提案しました。また、木材だけに捉われず上流部で生産されている産物も対象とすることを提案しました。
- ・上流部の人々が幸せになるために、ビジネスサイクルとして中下流部の人々ができることを考えていくことが、今後の大きなテーマであることを説明しました。
- ・今後、丹羽氏や事務局を含めて山村ミーティングの活動の方向性について決定することとなりました。

■森づくりガイドライン（山部会 蔵治 座長）

- ・木材利用をテーマに開催された令和 7 年度第 1 回とよた森づくり委員会の内容を紹介しました。皆伐再造林に対して民間主導での実施を推奨していることを情報共有しました。
- ・皆伐再造林をしない場合、巨木の森を形成することになり、倒木などによりライフラインを脅かす危険性があることを説明しました。また、倒木後の跡地で土砂崩れが発生する危険性が高まることを説明しました。
- ・皆伐後に再造林した樹木は、メカニズムは不明ですが、0～10 年の間で土砂崩れが発生する確率が高いことを林野庁が発表していることを情報共有しました。
- ・国土審議会・社会資本整備審議会が発表した「流域総合水管理のあり方について」答申について説明しました。

■木づかいガイドライン（森と子ども未来会議 鈴木代表）

- ・矢作川流域の自治体の中でも、森林のない自治体は、木材利用に対してイメージが湧いてない場合もあるため、流域産材の活用を広めることの重要性を説明しました。
- ・矢作川流域圏と豊川流域圏全体で住宅・非住宅のブランド化を山側から提案するなどの、今後の方向性について説明しました。

2. 平谷村の概要、森林環境譲与税の活用状況について話題提供



■平谷村の概要（平谷村産業建設課）

- ・平谷村の人口、気候、産業等の概要について説明していただきました。
- ・矢作川水源基金から、村有林の間伐事業への助成金をいただいていることを報告していただきました。
- ・矢作川流域地域交流事業として、平谷村でバスツアーを開催したことを報告していただきました。
- ・矢作川沿岸水質保全対策協議会に協力し、碧南市との交流により雪の提供や潮干狩りへの参加などの交流があることを報告していただきました。

■森林行政の活用状況（飯伊森林組合）

- ・平谷村で実施している森林環境譲与税を活用した森林整備について説明していただきました。
- ・森林整備の実施方針に基づき、令和 2 年度から約 10 年間に渡り、全ての対象森林の意向調査等を実施していくことを報告していただきました。

◆話し合いでの主な意見（・意見 ➤回答）

1. テーマ別の活動進捗状況の報告

（1）流域圏担い手づくり事例集

- ・流域材利用の活動についても、流域圏担い手づくり事例集に組み込めると思う。（三ツ松）
 - 木づかいガイドラインと山村ミーティングが協力し、流域材利用の活動の調査と推進を図れば良いと思う。（洲崎）
 - 流域材利用の活動は、流域圏担い手づくり事例集とは、分けて木づかいガイドラインとして進めていく方針で良いと思う。（三ツ松）

（2）山村ミーティング

- ・森林のない安城市と根羽村は交流があったが、徐々に薄れてきていると感じる。そのため、流域全体の交流を増やすために、安城市と根羽村に取材をしたいと思っている。（近藤）
- ・平谷村では、農業に携わる人手が不足している。個人的にサポートしているが、企業が行っているような取り組みに民間が参画できるような仕組みがあれば良いと思う。（宇角）
 - ビジネスサイクルを作ろうとする企業は上流域にも下流域にも存在している。（蔵治）
 - 山を支える産業として大事な農業であるにも関わらず、山部に農業を専門とする方が参加されていない。今後、流域圏担い手づくり事例集と協力しながら、連携を図ることができれば良いと思う。（蔵治）

（3）森づくりガイドライン

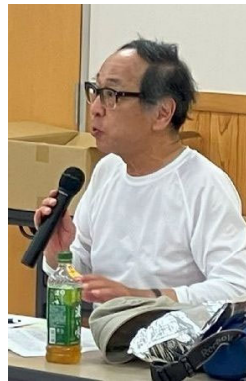
- ・巨木化した時の状態を見たことがある人はいない。全国的にも経験が浅く、災害の危険性があると思う。とりわけ直根がない状態で植えられているスギに懸念を抱いている。また、巨木化することで集落全体が日陰となり、集落が消滅する可能性があるのではないか。そのため、集落が持続可能な森づくりをする必要がある。（山本）
- ・岐阜県での皆伐は、直ぐにバイオマス発電に使用できることから、バイオマス発電用の木材を生産する動きがある。（小島）

（4）木づかいガイドライン

- ・林野庁で法改正の話があった。これまではどう木材を集めて事業とするかの視点であったが、木材流通全体の話が含まれるようになった。各自治体の考えや状況があるため、具体的にどう進めていくかは決定してはいるが、今後、協議会が開催される予定である。（高橋）
- ・恵那市の間伐面積が減少している原因について、市担当者に聞いたところ、森林環境譲与税の間伐事業が繰り越されていることに原因があると回答いただいた。（小島）

2. 平谷村の概要、森林環境譲与税の活用状況について話題提供

- ・平谷村の森づくりの特徴や、根羽村との違いがあれば教えて欲しい。（太田真知子）
 - 根羽村はスギが多く、平谷村はカラマツが多く存在している。根羽村はスギを主体とし、昔から生計を立てており、平谷村は雪に強いカラマツを植えて、徐々に注目されてきている印象がある。（太田俊之）



今後の予定

次回の山部会まとめの会・FWは、令和7年10月3日（金）～4日（土）恵那市にて開催します。

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会 事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省 豊橋河川事務所 流域治水課

TEL 0532(48)8107

*矢作川に関する情報は、国土交通省 豊橋河川事務所 流域治水課（cbr-toyo-chousa1@mlit.go.jp）までお送りください。



矢作川流域圏懇談会通信

R7 山部会編 vol.3



発行 日：令和7年11月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第17回山部会まとめの会を開催しました！

岐阜県恵那市にて開催した第17回まとめの会は、テーマ別の活動進捗状況の報告と第15期の振り返りおよび第16期の活動目標について議論しました。また、森林整備と流域材利用のあり方や、翌日のFWで案内していただくリコーエナの森の活動を紹介していただきました。

日 時：令和7年10月3日（金） 13:30～17:00

場 所：恵那文化センター

参加者：32名 ※事務局を含む



◆主な会議内容

1. テーマ別の活動進捗状況の報告



テーマ別の活動進捗状況について、担当者より報告し、意見交換を行いました。

■流域圏担い手づくり事例集（豊田市矢作川研究所 洲崎 主任研究員）

- ・これまでの流域圏担い手づくり事例集の活動と来期に発行予定の「流域圏担い手づくり事例集Ⅵ-Ⅱ」の概要について説明しました。
- ・「流域圏担い手づくり事例集Ⅵ-Ⅱ」では、取材先リストについてや、遠州灘流域圏を含んでいることを報告しました。山部会に限らず他部会や他団体も巻き込んで、取材担当者を決定していくことを報告しました。
- ・事例集交流会は「流域圏担い手づくり事例集Ⅵ-Ⅰ」と「流域圏担い手づくり事例集Ⅵ-Ⅱ」をまとめて、来期に開催することを報告しました。

■山村ミーティング（山部会 丹羽 副座長）

- ・出発点「矢作川の恵みで生きる」を用いて山村ミーティングの今後の方針について意見交換しました。
- ・「森林整備と流域材利用のあり方について（提案）」を基に、今後の活動を決定していくことを報告しました。

■森づくりガイドライン（山部会 蔵治 座長）

- ・森づくりガイドライン関連の今後の予定を報告しました。また、全体会議の同日の午前中に開催される「未来へつむぐ命の水と森の座談会」について情報共有されました。
- ・長期計画である森づくりビジョンの進捗管理を行っている岡崎市森づくり協議会の内容を説明しました。

■木づかいガイドライン（森と子ども未来会議 鈴木代表）

- ・来期の活動目標として、矢作川流域圏懇談会が中心となり、流域産材を活用するためのプラットフォームを作ること報告しました。
- ・あいちの木材利用施設事例集に記載されている、あいち木づかい表彰受賞施設等の愛知県材の木材を利用した好事例について情報共有しました。

2. 第15期の振り返りと第16期の活動



- ・第15期の振り返りと第16期の活動目標について話し合いました。
- ・4つのテーマの今期の活動実績を報告しました。「流域圏担い手づくり事例集」、「森づくりガイドライン」、「木づかいガイドライン」は、来期の活動目標において、今期から継続している事項や、来期から新たにに取り組む事項について報告しました。また、「山村ミーティング」の来期の活動目標については、本まとめの会の結果を踏まえて、修正していくことを報告しました。

3. 森林整備と流域材利用のあり方について（提案）



- ・木づかいガイドラインと山村ミーティングの合同テーマとして、森林整備と流域材利用の両立する方法を検討することを報告しました。
- ・流域材利用の成果と課題についてまとめ、情報共有することや、自治体や建築家などの関係者に思いを語ってもらい、意見交換する会を設けることを提案しました。

4. リコーエナの森の話題提供



- ・リコーエナの森の成り立ちや森林の特徴について説明していただきました。
- ・2014年より協議会体制となり、リコーエナの森中山道里山協議会を結成し、多くの人々、団体が関連していることを説明していただきました。
- ・「創る・学ぶ・遊ぶ多様な森」をテーマに様々な森づくり活動や学びの場として活用されていることを説明していただきました。

◆話し合いでの主な意見（・意見 ▶回答）

1. テーマ別の活動進捗状況の報告

（1）流域圏担い手づくり事例集

- ・流域圏担い手づくり事例集Ⅵ-Ⅱの冒頭で、流域圏大学の概要や必要性について蔵治氏と萱場氏の対談を掲載するのはどうか。（近藤）
 - ▶ 蔵治氏と萱場氏の対談を踏まえ、流域圏大学について、今後の展望等の寄稿文を近藤氏が作成する。（洲崎）
- ・川に関連する取材先は山を専門とする人が取材するなど、専門分野が異なる方に取材してもらい、様々な立場、観点から情報を整理していきたい。（洲崎）



2. 第15期の振り返りと第16期の活動目標

- ・地域の木材の利用方針について、地域住民も考える機会が増えるような目標を設定すると良いのではない。（山本）
- ・今後、木材の利用や森を活かす取り組みを担う若い世代の参加者が少ない。そういった若い世代や山に興味がない人々へのアプローチが重要と考えるが、懇談会ではどのようなアプローチをしているか。（吉水）
 - ▶ 地域の未来支援センターと22世紀奈佐の浜プロジェクトが共同で、学生を巻き込んだ取り組みを実施し、森や海について学ぶ機会を設けている。（近藤）
 - ▶ 上記のような活動をしたおかげか、ここ2年くらいで矢作川流域圏懇談会に興味を持ち、参加して下さる方も増えてきた。（三ツ松）
 - ▶ WGで議論するだけでなく、各自がWGで得た情報を発信していくことが重要である。（近藤）



3. 森林整備と流域材利用のあり方について（提案）

- ・流域材の利用は、川下に住む都市住民に森林の公益的機能や水源域のコミュニティ存続の重要性について関心や知識を高めてもらい、川上と川下の住民の交流、流域内フェアトレードを進めるきっかけとなる。（洲崎）
- ・テーマごとだけではなく、森林全体の問題として捉え、農山村に様々な人を巻き込み、新しい形の地域に根付いた生産活動や第1次産業を創出していく必要がある。（山本）
- ・流域等の広い範囲を対象とすると、活動の効果が見えにくい部分があると思う。そのため、若い世代や子育て世代を対象を絞り活動すると、効果が見えやすいと思う。（吉水）
- ・人々が行きたいと思えるような楽しい山村を目指すことが重要と考える。根羽村のハッピーマウンテン等の成功事例を基にそれぞれができることから具体化していくと良いと思う。（吉水）
- ・林業に携わる人々の多くが効率的な木の切り方について考えており、伐採後の森づくりに関心のある人が減少している。持続的な木材生産や公益機能を高めるための森づくりをしていくためにも森づくりの手法等を議論していく必要がある。（高橋啓）



4. リコーえなの森の話題提供

- ・リコーえなの森で子供達と遊ぶイベントを開催した。イベントの内容は企画せず子供発信で考えてもらい、自由な遊びをしていた。（高橋寿成）

今後の予定

次回の山部会WG・FWは、令和8年2月6日（金）～7日（土）岡崎市にて開催します。



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会 事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省 豊橋河川事務所 流域治水課

TEL 0532(48)8107

*矢作川に関する情報は、国土交通省 豊橋河川事務所 流域治水課（cbr-toyo-chousa1@mlit.go.jp）までお送りください。



矢作川流域圏懇談会通信

R7 山部会編 vol. 4



発行 日：令和8年2月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第74回山部会WGを開催しました！

愛知県岡崎市で第74回山部会WGを開催しました。今回のWGは、テーマ別の活動進捗状況の報告や岡崎市上下水道局経営管理課の方から、「未来へつむぐ岡崎の水プロジェクト」という乙川の水源涵養林の保全活動について話題提供いただきました。また、来期の山部会の開催時期についても議論しました。



日 時：令和8年2月6日（金） 13:30～17:00

場 所：岡崎市民会館

参加者：26名 ※事務局を含む

◆主な会議内容

1. テーマ別の活動進捗状況の報告



テーマ別の活動進捗状況について、担当者より報告し、意見交換を行いました。

■流域圏担い手づくり事例集（豊田市矢作川研究所 洲崎 主任研究員）

- ・これまでの流域圏担い手づくり事例集活動の概要を説明しました。
- ・流域圏担い手づくり事例集Ⅵ-Ⅱの構成について紹介しました。また、令和8年1月7日に蔵治先生（山部会座長）と萱場先生（名古屋工業大学教授）の対談を実施し、事例集の冒頭に掲載することを報告しました。
- ・流域圏大学構想の実現に繋がる活動をしている取材先の概要について説明しました。
- ・3月中に取材を完了し、4月中に部会間調整会議（ミライ会議）で編集を行い、次回の山部会（6月予定）を目途に冊子を完成させる工程であることを説明しました。また、取材は誰でも参加可能であることを説明し、参加者を募集しました。

■山村ミーティング（代理：山部会 蔵治 座長）

- ・来年度以降の活動について意見交換しました。
- ・岡崎市や根羽村では、流域内の経済的な繋がりを意識した取組をしていることを説明しました。
- ・岡崎森林組合の荻野氏より、矢作川流域圏における岡崎市と豊田市のような山地を有する中核市に関して論じられたレポートである「林業への参入を促す中核市の実践」を紹介いただきました。
- ・岡崎森林組合の荻野氏より、もりまちの事業内容である「木材の流通」・「空き家対策や就労支援」・「新たな事業分野の模索」について説明していただきました。

■森づくりガイドライン（山部会 蔵治 座長）

- ・林野庁が発表した森林の水源涵養機能における簡易的定量評価手法について、情報共有しました。
- ・降雨と森林の関わりについて、説明しました。林床に達した水が、土壌に貯留され、植物の利用等の過程を経て、河川へ流入する動きを支えるのが森林土壌であり、洪水緩和・水資源貯留・水質浄化へ寄与する「水源涵養機能」を発揮します。また、この評価手法では、水資源貯留機能に着目した水源涵養量のみ定量的に評価できることを説明しました。
- ・令和8年3月に解説資料の完成版とExcel計算ツールを林野庁ウェブサイトで公開予定であることを報告しました。
- ・長良川河口堰30年シンポジウムで、流域総合水管理をテーマとした議論が行われることを報告しました。

■木づかいガイドライン（一般社団法人 森と子ども未来会議 鈴木代表）

- ・額田木の駅プロジェクト令和6年度事業報告書について情報共有しました。
- ・岡崎市中心間政策課の今井氏より、岡崎市森づくり協議会の資料を用いて、木材利用施策の進捗報告について説明していただきました。
- ・岡崎市中心間政策課の今井氏より、豊田市と岡崎市が共同で行っている、下流域の自治体に流域を意識した木材利用を促進する活動について説明していただきました。かつての岡崎市の木材利用基本方針は、市産材・県産材・国産材でしたが、令和7年度から矢作川流域産材を追加したことを報告しました。
- ・額田木の駅プロジェクト副実行委員の日高氏より、岐阜県中津川市の木造の小学校で96%が岐阜県材、64%が中津川市産材の木材を使用する事例を紹介していただきました。

2. 未来へつむぐ岡崎の水プロジェクトの話題提供（岡崎市上下水道局経営管理課 村田氏）



- ・岡崎市は乙川上流域の森林を含むことから、自己水率が75%と高く、市内の森林を守ること、水道水の安定供給に繋がることを説明していただきました。
- ・未来へつむぐ岡崎の水プロジェクトの概要について説明していただきました。また、プロジェクトの目的として水源涵養機能向上と水源林の大切さを啓発することであると説明していただきました。
- ・プロジェクトの活動拠点である桑谷山の概要について説明していただきました。

◆話し合いでの主な意見（・意見 ▶回答）

1. テーマ別の活動進捗状況の報告

（1）流域圏担い手づくり事例集

- ・流域圏担い手づくり事例集Ⅵ-Ⅱの取材は、3月中に完了したいため、早めに取材者を決定する必要がある。（洲崎）
 - ▶根羽村の取材に同行したいため、日程を教えて欲しい。（鬼頭）
 - ▶取材を希望される方は、メーリングリストにエントリーしていただければ、アドレスを登録し、取材に関する情報を共有する。（洲崎）

（2）森づくりガイドライン

- ・蒸発散量等の説明として、国が発表している手法を根拠にできることが良いと思う。（小田）
- ・評価手法として、単純化しすぎているように感じる。森林整備の効果を定量的に評価することはできないため、使用用途が限定されるのではないかと。（高橋啓）
- ・森林整備の前後における水源涵養量の定量的評価ではなく、「森林」そのものの水源涵養量の評価手法のように感じる。（洲崎）
- ・森林整備の前後を評価することができないため、企業の使用目的が不明確である。（鈴木）
- ・間伐の前後で立木の密度の変化を考慮して比較すると、簡易的な評価の情報が得られるのではないかと。（小島）
- ・水源涵養量に影響を与える蒸発散量が、立木の密度に大きく左右される計算式となっている。また、間伐すると立木の密度が減少するため、蒸発散量が減少し、その結果地表水が増加し、洪水リスクが上昇するという結果になってしまう。（小島）

（3）木づかいガイドライン

- ・木材利用と森づくり活動を紐づけた考え方が大切である。集成材等の加工度が高い木材であれば、それほど管理が行き届いていない森林の木材でも使用可能である。また、それらの木材を一般的な住宅等の比較的コンパクトな物件に使用することで、森づくり活動と紐づけた継続的なモデルとして実現可能である。（今泉）
- ・流域産材利用に協力していただける地元の工務店を増やしていくことで、年間の流域産材利用量の増加に繋がる。（鈴木）
- ・流域産木材を使用したいと考える施主や工務店、設計者が調達先を分らない事が多い。流域産木材の素材生産から製材加工、流通経路を調査・整理してアドバイスできる体制を作ることが必要だと思う。（鈴木）



2. 未来へつむぐ岡崎の水プロジェクトの話題提供

- ・プロジェクトの財源はどこになるのか。また、活動拠点である桑谷山にあった桑谷山荘はどのような施設だったのか。（小島）
 - ▶財源は市民の上下水道の使用料金と参画していただいている企業から一定金額を徴収している。（村田）
 - ▶桑谷山荘は市営の国民宿舎であり、現在は取り壊されている。（日高）
 - ▶桑谷山が水源地である山綱川は汚れた川のイメージがあるが、元々は綺麗な川であった。そのような場所がプロジェクトの対象となることに喜びを感じており、楽しみにしている。（沖）

今後の予定

次回の山部会 WG・FW は、令和8年6月26日（金）～27日（土）恵那市にて開催します。

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会 事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省 豊橋河川事務所 流域治水課 TEL 0532(48)8107

*矢作川に関する情報は、国土交通省 豊橋河川事務所 流域治水課（cbr-toyo-chousa1@mlit.go.jp）までお送りください。

